

令和7年度 第2回恵庭市社会福祉審議会

高齢者福祉・介護保険専門部会 会議録

1. **開催日時** 令和7年11月13日（水） 午後3時00分～午後4時00分
2. **開催場所** 恵庭市民会館 2階 中会議室
3. **出席者**
 - 【出席委員】 山内部会長、野口委員、齊藤委員、木下委員、米山委員、
本間委員（計6名）
 - 【欠席委員】 4名
 - 【傍聴者】 0名
 - 【報道関係】 0名
 - 【事務局】 保健福祉部長、保健福祉部次長、介護福祉課長、
介護福祉課 高齢者相談・介護認定担当主査、介護保険担当主査、
生きがい対策担当主査、指導担当主査・スタッフ（2） （計9名）

4. 内 容

- (1) 開会
- (2) 議事

<協議事項>

1. 介護保険サービス事業予定者の選定について
(認知症対応型共同生活介護)

<報告事項>

1. 令和6年度介護保険事業の実施状況（決算）について
2. 令和7年度介護保険事業の執行見込（予算）について
3. 地域密着型サービス事業者等の新規指定等について
4. 令和7年度恵庭市高齢者世帯等冬の生活支援事業の実施について
5. 医療介護連携の取り組みについて

- (3) 詳細

<協議事項>

1. 介護保険サービス事業者の選定について

(認知症対応型共同生活介護)

- ・今年度、介護保険サービス事業者の公募について、認知症グループホーム 1 施設には応募があったが、残る認知症グループホーム 1 施設及び小規模多機能型居宅介護施設については応募者が無かった。
- ・応募のあった 1 事業者については、当該事業に関わる恵庭市介護保険サービス事業者選定委員会設置要項に基づき、選定委員会を開催し、書類審査、事業者プレゼン審査、ヒアリング審査による総合審査を実施した。
- ・選考の結果、株式会社リビングプラットホームケアを当該事業の予定者として選定した。

【部会長】 只今事務局より説明のあった議事について、質問・意見等はあるか。

⇒質問・意見等なし。

【部会長】 本議題は協議であるため、本件について専門部会として承認してよいか。

⇒承認。

<報告>

1. 令和 6 年度介護保険事業の実施状況（決算）について

令和 6 年度における介護保険事業の実施状況について、日常生活圏域別の状況、人口や認定者数の推移、サービス給付費や給付状況等を資料に基づいて説明。

2. 令和 7 年度介護保険事業の執行見込（予算）について

令和 7 年度における介護保険事業の実施見込みについて、予算額の前年度比較により説明。

3. 地域密着型サービス事業者等の新規指定等について

居宅介護支援事業所について、新規指定が 1 件、廃止が 1 件。定期巡回随時対応型訪問介護看護事業所の指定更新が 1 件。訪問介護相当サービス事業所の廃止が 1 件となっている。

4. 令和 7 年度恵庭市高齢者世帯等冬の生活支援事業の実施について

灯油の高騰により冬期の光熱費負担増が見込まれるため、低所得者世帯への光熱費一部助成を、昨年度に引き続き実施する。助成額は世帯あたり 1 万円で、対象世帯は全体で 4,400 世帯を見込んでいる。第 4 回定例議会での補正予算要求のうえ、周知を進めていき、12 月 25 日を目途に支給を開始する予定。

5. 医療介護連携の取り組みについて

高齢化の進展に伴い、医療と介護の両方が必要とする方が増加していることから、地域包括ケアシステムの推進を図るため、ICT ツールを活用した取組を開始。

これまでの、意見交換会やアンケート調査、事例検討等を通じて、関係機関や多職種が繋がるイメージとしてビジョンマップを作成した。

高齢者が暮らす中で、日々の生活や体調等の変化を、情報として関係者間で早期に共有できるよう、ICT ツールを導入、利用している。

本年 8 月には、介護事業所や医療関係者等を合わせて 190 名程度が参加した説明会を開催し、来年 2 月には連携セミナーとして事例紹介を行う予定で、令和 8 年度以降も、更なる活用に向けた取組を進めていく。

【部会長】 只今、事務局より説明のあった、報告について質問・意見等はあるか。

【委員】 報告 1 の計画値と実績値に差が大きいように感じる。認定者数の推移では要介護度 2 以上では若干実績が下がっており、給付費やサービス量も低くなっている。要因として、事業所の人員不足等でサービスの提供に影響があったのか、といった分析があれば聞きたい。

【事務局】 第 9 期計画策定時に推計するにあたり、国が提供する「見える化システム」というものを活用しているが、このツールによる推計では全国的な傾向を踏まえてサービス量や給付費、認定者数等が増加する状況となっている。

ただ、恵庭市の状況は全国的な傾向とは少し乖離があり、もちろんシステムによる推計に対して市の状況を勘案して修正しているものの、どうしても差は生じてしまう。

人員不足が要因となっているかについては、具体的に数字として表れていないため、そのような認識はない。

また、恵庭市では比較的元気な高齢者の方が多く、要介護度が高くて介護サービスを必要とする割合が、他の自治体と比べても若干少ない状況にあることも一因と考えている。

【委員】 まず感想として、報告 5 の医療介護連携の取組についてだが、私も導入されている ICT ツールを使っているが、すごく使いやすいと感じる。特に、利用者情報を共有できる点はすごく使い勝手がよく、これまで電話で確認して時間がかかっていた部分が軽減されている。その分、利用者対応に時間をかけることができるし、どんどん広げてほしいと思っている。

報告 1 の圏域別高齢者数の推移に関して、非常に面白いデータだと感じているが、圏域毎の認定者数のばらつきが気になる。きた包括の地域では、他地域と比べて要支援者の数に開きがあるが、こうした人数の違いによって、地域包括支援

センターでの課題などはあるか。

【事務局】今のところ、そういった観点の課題等は把握していない。ただ、地域包括支援センターは、介護予防のケアマネ業務だけでなく、地域の高齢者が抱える困りごとなどの相談支援も行っているため、地域の高齢者や認定者数が増えていけば事業所として対応できるのかといった課題はあると認識している。

その際は、事業所としても人員の補充は考えると思うが、市としても協力していきたい。また、今後は重層的支援を担う部分も増えてくるので、介護事業等の業務と併せて、適切に運営できるよう市でも対応していく。

【委員】報告1の給付費において、短期入所生活介護が計画よりも実績が下回っており、令和7年度の予算でも前年度より減少している。自分の感覚としては、このサービスの利用調整でケアマネ等は苦勞しているように感じるが、実際のところ恵庭市では足りていてこの状況なのか、足りていない状況なのか知りたい。

【事務局】いわゆるショートステイに関してだが、ニーズや要望としては非常に大きいものだと認識しているが、実際に利用できる数が限られているということも伺っている。市内のショートステイ事業所でも、広域的な活用があるため、恵庭市民だけでなく、市外からの利用者も入っているため、予算と実績の部分で差が生じていると考えている。

そのため、足りているかということであれば、おそらくニーズとしては足りていない状況であるが、ショートステイのみで運営される事業者はほとんどおらず、特別養護老人ホーム等に付帯する事業所が主となっているため、市としても対策が難しいと感じている。

【委員】認知症グループホームで、令和6年度に2ユニットで指定されたが、現状は職員不足により実質1ユニットの稼働になっている事業所がある。この場合、開設にあたっての補助金などが入っていると思うが、取り扱いとしてはどうなるのか。

また、先ほどの質問でショートステイの話があったが、私どもで運営している同事業だと、市外の方の利用が3、4割程度ある。近隣市でもショートステイ事業所の休止等もあり、できれば恵庭市民を受け入れていきたい一方で、他自治体からの利用を受けざるをえない状況がある。

【事務局】補助金に関しては、厳密には道の補助金であるため、調整した中で決定することになる。なお、事業所に関しては、先日も運営法人としてある程度責任がある方をお呼びして、現状を確認し、早期に解消するよう指導を行っており、引き続き対応していきたいと考えている。

【委員】高齢者の通院するための交通手段について、次期の第10期計画の策定において、盛り込んでいただけると助かる。高齢者が病院を予約しても、エコバスだと時間

がかかろうえに丁度いいタイミングが無い、タクシーはすぐ来れない、介護タクシーは予約が必要といった課題があると聞いている。どういう風に解消できるかは分からないが、ケアマネージャー等からもそうした困りごとを聞いているため、提案させていただいた。

もう一点は、重層的支援に関してだが、高齢者だけでなく幅広い年齢層から相談があることが予想されるため、圏域毎の人口の差が影響すると思う。きた圏域とひがし圏域では1万人程度の差があり、ヤングケアラーや8050問題を考えると、相談件数にもかなり差が出るのではないかと若干不安がある。そういった点も考慮して、圏域の割り振りを考える時期が来るかもしれないし、例えば「にし圏域」が出来るのかといったことも考えてしまう。それは別にしても、相談件数が爆発的に増えることが不安でもあるので、その視点も第10期計画の中で押さえてもらえればと思う。

(4) その他

【事務局】 4月から開始している補聴器購入助成事業の進捗状況について報告したい。

11月12日時点で、申請件数は127件、うち115件、573万5,000円を支出している。

なお、4月に見込んでいた人数は100人で、予算として500万円を確保していたが、不足する見込みだったので、新たに100人分、500万円を補正予算で計上しており、合わせて200人分1,000万円の予算規模で年度末まで引き続き実施していく。

(5) 閉会

【部会長】 その他、ご意見・質疑がなければ事務局より連絡事項はあるか。

【事務局】 次回の専門部会は令和8年2月頃を予定しているので、若干前後する場合もあるが、時期が近づいたら、また日程等のご案内をしたい。

【部会長】 それでは、以上をもって閉会とする。